

平成26年度「看護学部公開講座」レポート

平成26年度の看護学部公開講座は、福島県農業総合センターを会場に開催されました。「病院から在宅へ～認知症の方々の地域での生活を支援するために～」をテーマに、パネルディスカッションが行われ、県内の医療・介護の職種の方々がご来場されました。「自宅で入院前と同じように生活を送りたい」という認知症の方々の期待は、どうすれば適えられるのか。看護学部の高瀬佳苗（在宅看護学）、畠山とも子（家族看護学）、本学附属病院の岩崎美樹（退院調整の臨床支援）、3人の先生方が登壇され、前半はそれぞれの専門の分野から現状の問題点と今後の課題を提起していただき、後半は3人の先生方各々を囲む三つのグループに分かれて、質疑応答や関心の高い事項について議論しました。

日常生活において様々な支援を必要とする認知症の療養者が、今後も右肩上がりが増えていくと予想されています。在宅福祉・医療・保健の時代にあつて、地域社会が認知症の方々をどのように受け入れ、その家族を支えていくか、先駆的な実践に学びながら、関係者が一堂に会して継続的に真摯な検討や研究が必要であることを、参加者一同で確認することができました。



先生方から貴重なお話しを聞かせていただきました



お問い合わせ：企画財務企画担当
電話 (024) 547-1013 FAX (024) 547-1991
E-mail : kikakug@fmu.ac.jp